

吹田市教育研究大会報告

平成19年（2007年）9月21日 吹田市教育研究大会事務局発行

第1回 吹田市教育研究大会が8月24日（金）午後、吹田市のすべての教職員の方々の参加により開催されました。皆さんの参加と会のスムーズな運営へのご協力ありがとうございました。また、アンケートによるご意見・ご感想もたくさんいただくことができました。研究大会の様子と皆さんからのご意見を紹介させていただきますと思います。

《全体会》 基調講演「ことばの力 言葉のこころ」

吹田市教育委員 道浦 母都子氏

「表現手段として一番よく使われている言葉。社会の水鏡と言われる言葉。正しい日本語、美しい日本語や言葉が乱れてきたところから、社会もおかしくなってきたのでは？ 褒めることの大切さ。人の一生をかえたり逆に傷つけたりする言葉。言葉を大切にして、マイナス思考の言葉からプラスイメージを考えて、希望が持てる言葉をかけあい、子どもや保護者の方との関係を作ってほしい」とのお話をいただきました。また、「吹田市子ども百人一首」からの作品紹介や、会場の方に参加頂き、人権作品の標語につなげて短歌をつくり、言葉のすばらしさをともに味わいました。

《会場の方との言葉のキャッチボールでできた短歌》

いじめのない 学校つくる がんばるぞ
いじめのない 学校つくる がんばるぞ
いじめとさようなら 仲間とこんにちは
とめようよ 見て見ぬふりもいじめだよ
とめようよ 見て見ぬふりもいじめだよ

みんなひとしい ひとつの命
歌でつながる みんなの気持ち
仲間のいいところ 見つけあう
私ができる 小さなことから
小さな声かけ みんなの笑顔

会場からの積極的な参加ありがとうございました！

参加者からは、「人をほめることも傷つけることもできる『言葉』について小学校のうちから使い方を教えることが大切だと感じた。」「人と人がつながりあうための言葉の大切さがよく伝わりました。また、自分を見つめることも言葉を書きとどめていくことで深められること、教師として一人一人を深く見つめることの大切さが深く伝わりました。」「道浦さんの心地よい言葉遣いに言葉の力を感じました。」などの感想をいただきました。

展 示 発 表



展示発表（学校図書館部）



幼稚園の取組紹介

《第1分科会》

シンポジウム「不登校を考える～子どもたちの未来のために～」

保護者の方にも参加いただきました。

シンポジストには、NPO法人トイボックス代表理事の白井智子さん、妙高市の自然学校ねぎぼうす代表の大矢かおるさんをお迎えし。市教育委員会で不登校問題対応担当の指導主事の大江慶博、そしてコーディネータには、青少年室非常勤職員の吉川鎮男があたりました。

フリースクール代表としてお話をされた白井さんからは、先生たちはまず保護者の思いを受け入れること、そして信頼関係の回復のきっかけを作ること。「ほうっておいて」「関係ないやろ」という子どもの言葉は、コンプレックスの裏返しであり「助けてほしい」という心の叫びであることを伝えられました。次に、自然学校代表の大矢かおるさんは、今は、非常に便利になった世の中、その中で、あえて不便なこと・時間のかかるようなことを体験する。最初はとまどっていた子どもも、3時間もすれば野生化する。達成感を味わった子どもたちは表情が変わっていくというお話をいただきました。大江指導主事からは、吹田市の子どもの不登校の現状、そして、不登校の子どもを作らない、未然防止のための取組方策について小中一貫教育の観点から提案がありました。

参加者からは、「様々な視点から不登校についての実情を知ることができよかった」「まずは、すべてを受け入れる。あたまでわかっていてもなかなかむずかしいが、改めて大切なんだと感じた」「3人のパネラーの方々同士の討論や意見交流も聞きたかった。」などの感想をいただきました。



《第2分科会》「チャレンジ！小学校英語」

藤白台小 模擬授業



まず、藤白台小学校6年生による模擬授業。担任を中心とした英語活動を2人のHRTのチームティーチング形式で行われました。先生二人が役割分担しながら、英語の指示のもとに、児童が積極的に楽しく会話表現できる授業が提案され、参加者も熱心に参観しました。そのあとの研究報告では、教育センター小学校英語教育研究グループから、10～15分の英語活動例のデモンストレーションと子どもたちの興味関心をベースとしたLESSンプランの紹介がありました。

参加者からは「学級担任がする英語活動の実際の授業を見せていただいてよかった。具体的なLESSンプランの提案もあり、吹田市のどの小学校でもすぐに取り組んでいけ

るのではないかと思います。中身の濃い発表でした。来てよかった。授業の在り方を提案するこのような分科会がもっと数多くあればと思います」などの感想をいただきました。

《第3分科会》「幼・小連携」「小中一貫教育」をすすめる中で見えてきたものは？

豊津第一幼稚園と豊津第一小学校から、併設園という立地条件を生かした具体の取組例の紹介や「年長児にとっては、小学校に慣れ、入学への期待が高まる」「児童にとっては、自分の成長を感じることができ、次年度への期待が高まる。」「教師にとっては、お互いの思いが確認できる。」などの幼小連携の利点と人事交流して見えてきたことについて報告がありました。また、古江台中学校ブロックからは、学力実態調査から課題を発見し、全ての教科、領域において「国語力」の育成をめざし取り組んでいる「国語力育成プラン」と古江台中学校ブロックスタンダード（①読む力、聞く力、話す力、書く力、漢字力 ②「議論のルール」）の取組経過の報告がありました。

参加者からは、「幼稚園での遊びが小中へつなぐと自覚と自信をもって保育したい。」「幼小、小中連携という11年間を通して子どもたちの育ちを共通理解できる場だった。」「もう少し質疑応答の時間があったらよかった。」などの感想をいただきました。

《第4分科会》「確かな学び、ゆたかな心を育てるための指導の工夫」

A 困り感を持つ子どもへの支援

ー学習・行動を通してー

「国語・算数・行動」について、教育センター発達理解研究グループから、発達の視点にそって、子どもたちのつまづきの具体例の紹介とその支援方法の提案がありました。小学2年生の漢字と文章題の誤りについてのデータに即した実態報告は、子どもの困り感を強く共感することができました。また、幼・小・中の授業ルールの報告はその系統性と特徴を改めて確認しました。また、漢字・文章題の支援方法と行事での行動支援が具体的に提案されました。参加者からは、「2学期からすぐに実践できる内容でよかったです。自分でやってみて、また振り返りながら改善していきたい」などの感想をいただきました。

B いろんなことできまっせ！

ー情報機器を活用しようー

小学校3年生社会「昔のくらしの様子」の授業実践例を通しての電子情報ボードの活用例の紹介や「公簿のフォーム化」について、共有フォームを広げ活用していくことの提案」コンピュータ指導が苦手な人でも取り組みやすいソフトを使用している個人情報保護の指導例の紹介がありました。

参加者からは、「色々な機器を実際に使っているのを見るのは参考になります」「個人情報を守る大切さ、それを授業でも取り組んでいくことをもっとしていけないといけないと思った。」などの感想をいただきました。

《第5分科会》「学校・園の活性化」ーベテランも苦手も・・・あんたのええとこ、ここやで・・・！

「学校・園の活性化」をテーマに、幼稚園・小学校・中学校それぞれの現場における、ベテラン教員と若手教員とのやりとりからの投げかけをビデオで提示。そのあと、クイズ形式による提示及び参加者によるフリートーク、そして、子ども対応で悩める若手教員と彼を支える同僚教職員と互いの思いを出し合う中で、高まっていくそれぞれの「教育」にかける熱い思いをテーマとしたプロジェクトVメンバーによる劇「また、あした」の上演。ビデオあり、クイズ、劇、歌あり 笑いと涙満載 楽しく、熱気溢れる分科会となりました。

参加者からは、「(私は、若手教員ですが、)皆同じ悩みを持っているんだなあと感じました。これから今まで以上に もっと元気ががんばろうと思いました。」「校種、職種を問わず参加できたのと、プロジェクトVのかたがたの熱意がいっぱい伝わってきたのが、すばらしかった。とても勇気がわいてきました。」「幼稚園や中学校の先生と交流ができる貴重な時間で、様々な意見が聞けてよかった。」などの意見をいただきました。



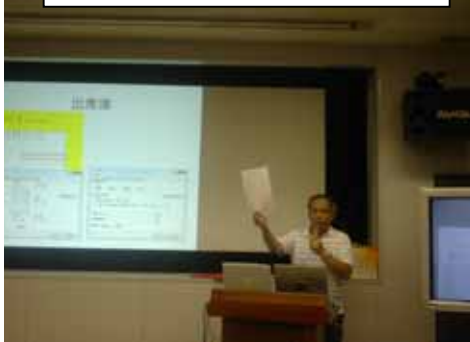
4 A 分科会

伊藤先生からの助言



4 B 分科会 情報教育

公簿のFORM化の提案



第3分科会

シンキングツールの紹介



アンケート結果報告

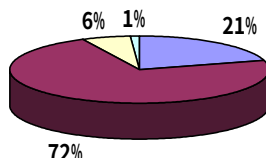
研究大会の様子が、吹田ケーブルテレビ「ザ・スペシャル」で、9月21日(金)から1週間(1日2回放映①13:30～②19:30～)放送される予定です。

全体会について

参加人数	1220
回収数	354

	人数	%
①とてもよかった	72	20.3%
②よかった	254	71.8%
③あまりよくなかつ	21	5.9%
④よくなかった	4	1.1%

全体会



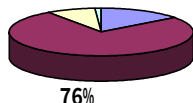
たくさんのご意見・感想ありがとうございました。

- ①とてもよかった
- ②よかった
- ③あまりよくなかつ
- ④よくなかった

分科会1(不登校)について

参加人数	852
回収数	177

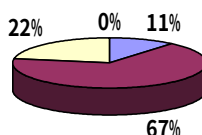
評価なし		14
分科会1	人数	%
①とてもよかった	26	14.7%
②よかった	134	75.7%
③あまりよくなかつ	15	8.5%
④よくなかった	2	1.1%



分科会2(小学校英語)について

参加人数	100
回収数	9

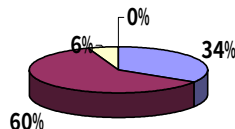
分科会2	人数	%
①とてもよかった	1	11%
②よかった	6	67%
③あまりよくなかつ	2	22%
④よくなかった	0	0%



分科会3(幼・小・中連携)について

参加人数	123
回収数	55

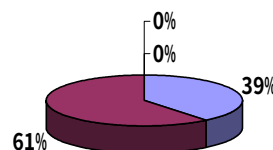
分科会3	人数	%
①とてもよかった	18	32.7%
②よかった	32	58.2%
③あまりよくなかつ	3	5.5%
④よくなかった	0	0%



分科会4A(特別支援教育)について

参加人数	118
回収数	24

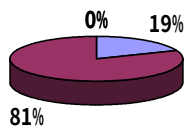
分科会4A	人数	%
①とてもよかった	9	37.5%
②よかった	14	58.3%
③あまりよくなかつ	0	0%
④よくなかった	0	0%



分科会4B(情報教育)について

参加人数	57
回収数	16

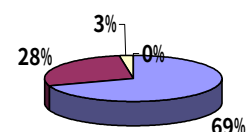
分科会4B	人数	%
①とてもよかった	3	18.8%
②よかった	13	81.3%
③あまりよくなかつ	0	0%
④よくなかった	0	0%



分科会5(学校・園活性化)について

参加人数	116
回収数	79

分科会5	人数	%
①とてもよかった	55	69.6%
②よかった	22	27.8%
③あまりよくなかつ	2	2.5%
④よくなかった	0	0.0%



以上のように、たくさんの「よかった」という評価をいただきました。ただ、分科会によっては、時間がぎりぎりになってしまい、アンケートの記入の時間が十分にとれず、回収枚数が少なかった分科会もありました。アンケートの回収についても次年度以降検討していきたいと思います。全体に関するご意見の中には、「希望の分科会に行けなかったので残念であった。」「遅れて集会室のモニターで見たので残念であった。」「内容はよかったが開催時期について検討してほしい」などのご意見もいただきました。今回の反省や課題をふまえ、次年度さらに充実した研究大会となるよう、「また、参加したい」という研究大会になるよう検討していきたいと考えています。

次年度の大会も充実した大会を皆さんで作っていきましょう！